

知識及び技能	相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防ができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他社に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	柔道に自主的に取り組み、伝統的な行動の仕方を大切にすること、自己の責任を果たそうとすること、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保することができるようにする。

※共：単元全時間を男女共習で実施

	1	2	3	4	5	6	評価規準	
ねらい	これまでの学習を振り返り、学習上の安全に留意し、受け身の確認をすることができる。	投げ技に必要な基本動作（体裁き、崩し、つくり）を身に付け、お互いが静止した状態で投げ技の練習を行うことができる。					【知識・技能】 ①各種投げ技の特性とポイントを言ったり書いたりしている。 ②相手の投げ技に応じて適切に受け身をとることができる。	
導入	体操、柔軟体操、マット運動	体操、柔軟体操、マット運動	体操、柔軟体操、マット運動	一人ひとりが活躍するために、「取」「受」のポイントをおさえ、安心安全に投げ技（背負投）を楽しむことができる。			【思考・判断・表現】 ①他者の投げ技の観察などから、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、改善すべきポイントなどを提案している。 ②体力や技能の程度などに配慮して、仲間とともに柔道を楽しむための活動の方法を見付けていく。	
展開	安全に留意して、投げ技の学習ができるように受け身の確認を行う（一人）。 ・後受け身 ・横受け身 ・前回り受け身	体捌き（前回り捌き）の確認を行う。 相手を崩しながら、相手の懐に入り込む感覚を養う。	共：（1）生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組むことができる仕掛け ・仲間とコミュニケーションを図ることや、相手の動きを感じる感覚を養うために、「帯を用いた「帯引き相撲」を行う。一歩でも動いてしまったら負けとする。片足や目を瞑ってなど生徒の状況に応じて、開始時の体勢を決める。	共：（2）生徒同士が学びあいがながら動きを高められる仕掛け ・グループ（4人組）を組み、自分たちの投げ技（背負投）の動作をタブレット端末で撮影（連写機能）しあう。投げ技の良い事例を参考に、気づいた点を指摘しあい、お互いに改善を図っていく。 ・仲間からの助言を生かし、良いパフォーマンスの連続写真を一つ完成させる。 ※改善する度、連写機能で撮影し、自身の投げ技のスタイル（完成度）を高めていく。 ※生徒に、技に入る際の、「取」の「引手」「釣手」の使い方（位置）や腰の位置、連写写真を見て、「良いところを一つ」と「なぜ良いのだろうか」を考えて、ワークシートに記入する。			グループ以外の仲間の背負投の連続写真とそれぞれの良い点を全体で共有する。 ※数名の生徒の背負投の連続写真をピクチャアップし、生徒の意見を加えたものをスクリーン等で提示する。 前回までのグループ以外の仲間の背負投等を踏まえ、ペアを組み（同体格同士）、5回程度背負い投げで投げ合い、自身の背負投の確認を行う。 授業のまとめとして、相手を上手（安全）に投げる際のポイントを確認する。 ※「崩し」「つくり」「かけ」をとることを柔道の理念の一つ「精力善用」と関連させて話をする。	【主体的に学習に取り組む態度】 ①学習に積極的に取り組もうとしている。 ②危険を予測しながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。
終末	ペアを組み、前回り受け身の練習を行う。 ・四つん這い ・膝立ち	整理運動、振り返り（授業後アンケート）の記入						

知識・技能	①	①②	①	②
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度	①			

生徒同士が学び合いながら動きを身に付ける支援の工夫
高等学校第1学年 F 武道 ア 柔道

1 単元の目標

- 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防ができるようにする。 【知識及び技能】
- 攻防などにおける自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 柔道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にすること、自己の責任を果たそうとすること、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

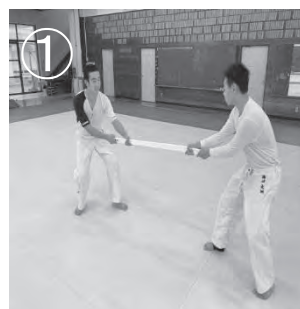
2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組むことができる仕掛け

本学習では、投技（背負投）において、主体的に学習を進めていくことができるよう、類似の動きによる感覚づくりをおこなった。また、投げること及び投げられることへの不安感を減らすために、リスクの高い局面及び対処法を示した。

①帯引き相撲

片手、両手の様々な組み合わせで行い、足を踏み変えずに体全身を使って、相手を一歩でも引っ張りだすように引き合う。補助運動かつ仲間との親交を深める遊びの要素として、実施したため、生徒たちは意欲的に取り組むことができた。相手に引っ張り出されたときは、腕の次に胴体が反応し、相手が引っ張る力に耐えきれずに動いてしまう。相手を投げる際には、相手の胴体まで力を伝えることが大切であり、この運動によって、相手が動いてしまう瞬間の身体が緊張した状態も意識することができた。



②おんぶ

相手の袖口近くを掴み、相手の体をしっかりと引き伸ばし、自身の膝を曲げ、腰の位置を相手より低くした状態で、おんぶの要領で背中に担ぐ。指示をしないで試してもらったおんぶより、力まずに背中に担ぐことができた生徒が多く、相手を腰に乗せる（効率よく背中に担ぐ）感覚をうまく養うことができた。



③リスクの高い局面の例示（かけ）

「つくり」から「かけ」へ移行する際に、「受」が「取」の頭越しに投げられるのを防ぐため、「取」は体を90度前傾させた後、上半身をひねる動作を加え、「取」の釣手側の肩越しに投げられることを徹底する。

なお、90度前傾させた際に、安定しなければ元の体勢に戻る。これによって、生徒たちが練習を行う際に、「取」と「受」がお互いにリスクマネジメントできており、安心して練習に臨むことができていた。



(2) 生徒同士が学びあいながら動きを身に付けるための仕掛け

自分自身や他者の感覚以外に、視覚的アプローチによって技能向上を図ることができるよう、グループを編成し、撮影（連写機能）用のタブレットを準備した。その際、気を付ける（考える）点として、「釣手」「引手」「腰の位置(全方位)」「体さばき」「撮影枚数」「投げられた後の受の足の位置」等を示した。



生徒のコメントの一部：
「取」の体が投げるときに、しっかりと横回転もしているから、「取」が投げるときに頭越しじゃなくて右肩越しに投げることができている。

3 成果と課題

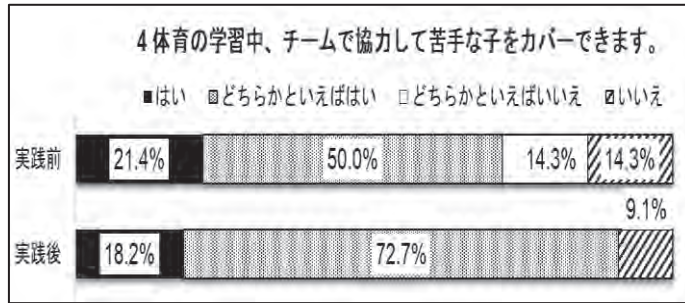
(1) 成果

- 主体的に学習に取り組むための仕掛けにより、投技への不安感を和らげることができ、生徒は、意欲的に取り組むことができた。その結果、ほとんどの生徒にとって初体験となる「投げる」ことについて、安全に取り組むことができ、一人ひとり技能を身に付けることができた。



【動きが身に付いた背負投げの技能の様子】
背負投げの一連の動きについて、動きのポイントとなる場面を静止画で提示することで、生徒は動きのポイントを視覚的に捉えることができた。また、自分の動きを振り返る手段としても活用した。

- 単元実施前後に行った「体育の学習に関する生徒アンケート(21 項目質問紙アンケート)」において、チームで協力して苦手な子をカバーできると回答した生徒が大幅に増加していたことから、本授業実践を通して技能差に関わらず生徒同士が学びあう学習が展開できたと考える。



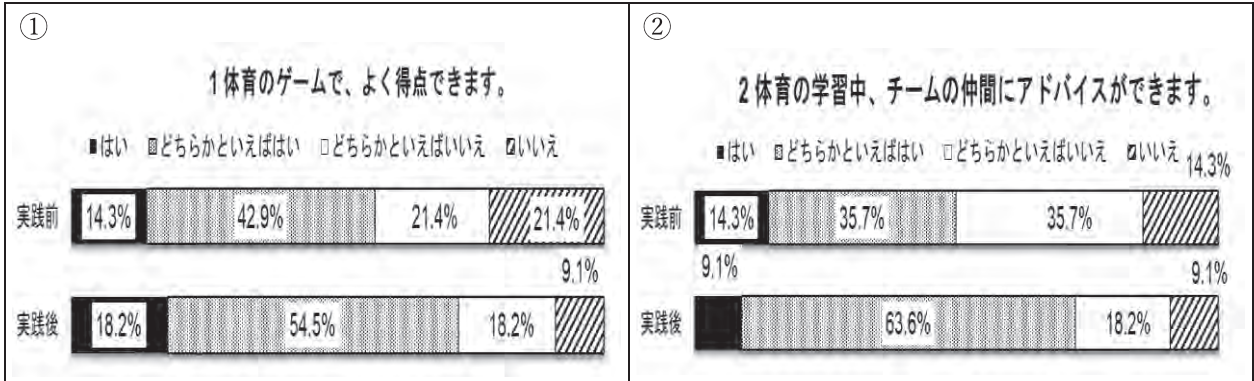
(2) 課題

- 本実践では、生徒たちが自身の感覚をうまく言語化、イメージ化し、仲間と共同で技能向上を図っていくことに重きを置いたが、人それぞれで感じ方や受け取り方が異なるため、言葉で感覚や動作を伝える難しさを改めて感じた。しかし、その中でも生徒たちは意欲的に学習に取り組むことができ、「投げる」技能を向上させることができた。生徒のコメントから、類似の動きによる感覚づくりや、連続写真による視覚的アプローチは効果的であったことがうかがえる。また、リスク回避のための動作の確認によって、不安感を軽減できたことも生徒たちが意欲的に学習に取り組むことができた要因の一つになっている。

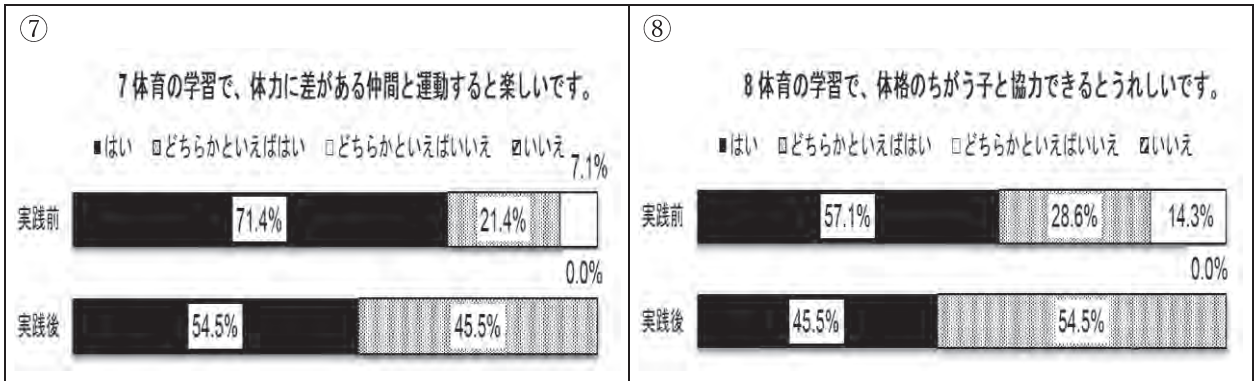
今後は、その他の手技、足技、腰技に分類される投げ技の学習を行うことや動いている相手を投げること、投げ技の攻防の中で投げることなどの学習を進めていくことができるよう、適宜、段階に応じた支援を行っていきたい。

【児童生徒の変容】

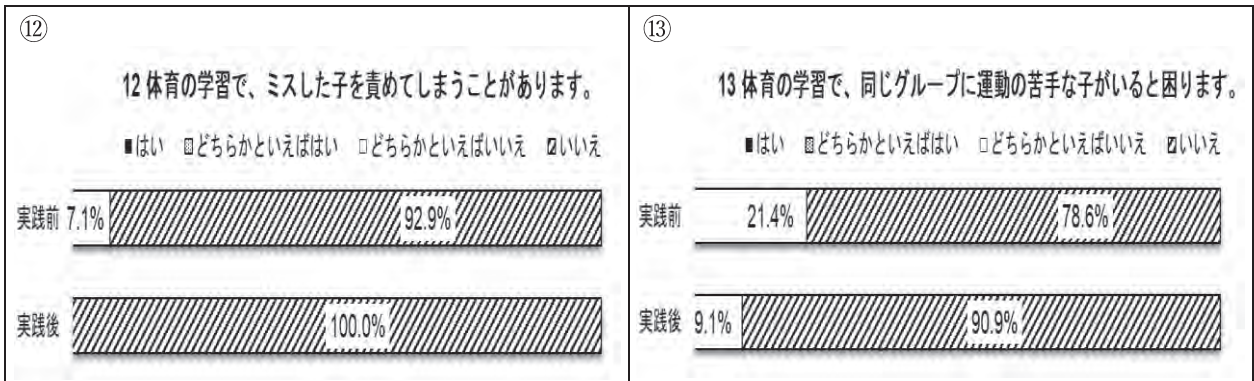
〔Ⅰ リーダーシップ〕



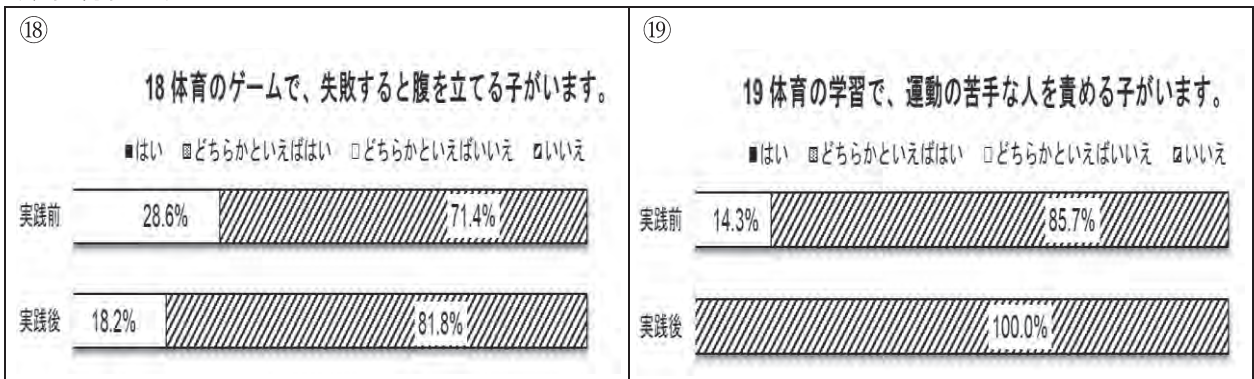
〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅳ 失敗への排斥〕



〔排除雰囲気〕



【授業実践協力者の声】

「投げ技」に対する恐怖心に怯むことなく、意欲的に取り組む生徒の姿が多く見られました。また、生徒がしっかりと自己や他者の技能向上のプロセスに関わっている実感を得られて、授業中にも生徒同士で、前向きな発言が増えるなどコミュニケーションにも変化が見られました。

